

- 管内 宗谷管内
- 分類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 保護者や地域の方の協力による安全マップ作成と安全指導への活用
- 校区内の交通安全街頭指導、地域人材を活用した防犯教室の実施等、地域との連携を図った安全教育の実施

取組の実際

ねらい

- 「こども110番の家」を記載した安全マップを活用し、学校全体で地域の危険箇所等を把握するとともに、地域と連携した地域の安全に関する取組を推進することにより、児童の危険回避能力を高める。

内容

- 1 地域の方の協力による地域の安全マップ作成
地域の方の協力により、校区の「こども110番の家」を記載した安全マップを作成し、それを活用して、危険箇所の確認や危険を感じた際の対応を考える安全指導を定期的に行っている。



【安全マップ】

- 2 登下校時の安全確保に向けた交通安全指導員との連携

交通安全について指導するとともに地域の見守り活動を実施している交通安全指導員の顔写真を掲示することで、児童が危険を感じた際に助けを求めることができる大人を身近に感じることができるようにし、地域と一体となった児童の見守り活動を推進している。



【交通安全指導員の紹介】

- 3 警察との連携による防犯教室の実施

地域の警察官を外部講師として招き、高学年を対象とした防犯教室を実施している。不審者に声をかけられた場面を想定し、どのように対応すればよいのかをロールプレイを通して確認するなど、児童の危険回避能力を高める活動を取り入れた安全指導を実施している。



【防犯教室の様子】

成果と課題

- 「こども110番の家」を安全マップで確認するとともに、ロールプレイを通して不審者への対応を指導することにより、日常生活で危険が感じられる場面における具体的な対応策を理解させることができた。
- 学校と交通安全指導員の相互理解を通して、児童が安心して登下校できる環境を整え、学校と地域の行動連携につながる体制を構築することができた。
- 校区内の危険箇所について、児童や保護者の意見を安全マップに反映するなど、安全マップの更新を図っていく必要がある。